

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100768		
法人名	営利法人 (有)熊進企画		
事業所名	グループホーム ゆうしん三丁目		
所在地	熊本市野中三丁目7-27		
自己評価作成日	平成22年7月14日	評価結果市町村受理日	平成22年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp">http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成22年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まだ、開所から1年に満たないホームでゆっくりとした歩みではありますが、利用者の方が、個々の生活の歴史、習慣などを尊重され 地域で暮らすことの安心感を感じながら生活して頂ける様にとの思いから、散歩や買い物の日課として設定し 日常生活の積み重ねを 丁寧に支援していくことを心がけています。そのなかで 穏やかに ご本人なりの暮らし方で日々を重ねて頂ける様 全てのスタッフが心を向けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通の便も良く、近くに大型スーパーや衣料品店等が立ち並ぶ生活の利便性の高い住宅地に「地域の人たちと繋がった生活を提供したい」と開所された2ユニットの事業所。職員16名中6名が新人ということであるが、入居者一人ひとりに向き合うことでケアの気づきがあると日々努力している。先入観にとられない新人ならではの発想もあり、チームを作って職員間の連携を密にし、チームリーダーが意見を吸い上げ、アドバイザーもそれぞれの意見をまとめて、より良いケアに活かすと共に働きやすい職場の在り方を検討し、職員のスキルアップに繋げている。家族会や、運営推進会議も、回を重ねる毎に充実していくことが期待出来る。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝 朝礼にて 綱領と基本理念を読み上げ、職員全員で再確認し実践につなげている	理念の三本柱は「安心・笑顔・地域との連携」である。毎朝の朝礼で唱和するとともに、申し送りを徹底し、見守りで出来ること・利用者一人ひとりに向き合うこと・気持ちによりそうこと等を確認し合い、ケアプランに取り入れ、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の方と近隣へ毎日の食材などの買出しに行ったり 散歩の時間にお会いする地域の方や交番などへ立ち寄って積極的に挨拶を行っている。	自治会に加入し、習字ボランティアの受け入れや事業所見学など、地域への密着を心がけている。夏祭り等の地域行事に参加したり、廃品回収やゴミ問題など利用者ぐるみで地域住民として参加している。	オープンから半年余りにも拘らず、ボランティアの申し込みも増えており、更なる付き合いの輪の広がりが期待できる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議や近隣の方の見学、町内の認知症サポーターの勉強会など折りある毎に伝えたり 実際に屋外で係わっている姿を目にして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題に行事や サービスの内容や入居者の方の活動状況などの報告を行い会議内で出た意見要望などは、検討し次の会議までには回答報告が出来る様になっている。	運営推進会議は家族代表をはじめ自治会長・長寿会・公民館長・包括支援センター所長・ボランティア会・福祉関係OB等、多様な参加者で2カ月毎に実施しており、災害時の対応や、避難体制について等質疑応答がなされるなど、内容の濃いものとなっている。また、会議録は開示されて、利用者家族の安心に繋がっている。	会議録は、開催日のみではなく、開催場所・出席者の記録があると、更に良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の担当者の方の運営推進会議出席や包括主催のサロンへの出席などを行い協力関係を築く様に取り組んでいる。	小さな疑問や事故の対応など、積極的に行政に相談してアドバイスを受ける等、緊密な交流を心がけている。運営推進会議やサロンへの参加を通して、包括支援センターとの連携も取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や勉強会などで、身体拘束についての理解を職員で周知し、現在 身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	2ユニットの中央・玄関の正面に、カウンター方式の事務スペース、両脇にそれぞれの台所が配置され、来訪者・利用者双方に職員の目が行き届き、実態の把握が可能となっている。居室は勿論、玄関の施錠もなく行動は自由。身体拘束をしないことを合言葉として、言葉での規制も見られなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、ミーティングで話し合ったり虐待について学ぶ機会を設け それぞれの意識付けに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフ対象の研修は行っていないが、一部スタッフの研修参加の報告書や資料などの回覧を行うと共に成年後見制度を利用されてる方が現在おられるので職員のより深い理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は、十分に不安や疑問を聞き取り安心して入所していただけるよう努めている。退所時も家族と継続した支援が続けられるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、まごころ箱（意見箱）の設置を行いご家族や来訪者が自由に意見や要望を出せるようにしている。	2か月に1回、新聞「3丁目だより」を発行する他、担当の職員は毎月家族に手紙で状況報告をしをている。また、面会時のコミュニケーションを大切にしており、遠隔地の家族には電話でも様子を伝えている。利用者の小遣い帳の記載方法等、家族の要望を取り入れた細かな意見の反映がなされている。	玄関に置かれた「まごころ箱」(意見箱)や、食事の献立表の掲示は家族からの希望を取り入れて設置されたもの。家族の意見や要望に対応し、ケアの質や運営方法への反映に繋ぐ努力がみられた。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所のミーティングを定期的にスタッフ全員で行い一人一人の意見を伝える場を設けている。	毎月一回職員ミーティングを実施。スタッフの意見をリーダーがまとめ、朝礼・終礼の際に「気づき」を伝え、利用者の様子を共有し、対応への意見を提案しあう等、ホーム全体への運営に反映させる機会を作っている。外部研修参加も職員が希望した場合は業務として許可、スキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	折りある毎の代表からの運営や自己実現に向けての話や介護給付金の詳細の説明も時間をとって行われ又管理者を通じて個人の労働条件についての相談などを受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受けたり、社内での講師を招いての研修などを定期的に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHのブロック会や同グループのGH会議などを通じて情報交換などを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	始めの1週間の大切さを念頭に置き 側に寄り添いご本人の話を傾聴し 共感することで安心して頂ける様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談の段階からご家族の話しかから要望や不安なことを汲み取り 担当者はそれを伝え スタッフ全員で情報を周知しご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の要望を聞き何を必要としているのか見極め、その時に必要なサービスの提供を(他のサービスも含めて)行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がしたいことや出来る事、また出来ないことではなく 支援があれば出来る事と捉え 日々の暮らしを一緒に重ねていくという意識で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の話、ご利用者の話 両方を聞き より良い関係が築けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人など いつでも面会に来られるような環境を作り、ご家族の方との外出の支援も行っている。	毎日面会に訪れ、散歩を日課にする家族、たまには昼食を共にしたいと外食に誘う家族など、自由な外出の対応がみられた。帰宅願望の強い利用者には、一時帰宅や墓参り等、利用者の希望に添えるよう家族に相談し、馴染みの絆強化支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を作れるような環境を心がけ行き違いなどの際のスタッフの係わりも状況に応じて支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話での対応、必要があれば出向くなどご家族との関係を繋いでいると共に、近くまで行ったときにはご本人の様子を伺いに立ち寄るなどの係わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人の生活歴などの情報をスタッフ間で共有した上で、一人一人の日々の暮らし方意向を汲み取り支援するよう心がけている。	ホームのスケジュールではなく、遅い朝食を取る人、昼食時食卓から離れて、ソファで一人テレビを見ながら食べる人等、本人の生活習慣や時間の流れに添う対応となっていた。日に何度もお洒落に着替えをする人、新聞を読む人、調理や食器洗いを積極的に手伝える人等、一人ひとりの個性を把握し、利用者の生活歴がケアにも活かされている。	居室に仏壇を持ち込まれた方もありますが、盆参りや命日の墓参りなど、家族の理解と協力を得られるような工夫が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や習慣など ご家族などからの聞き取りの情報をケースとしてまとめ個人ごとのファイルに入れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活介護記録の記載を行い介護計画書に基づき各個人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間で、アセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い ご家族の要望やご本人の希望を取り入れたケアプランを作成し、ご家族に納得していただいた上でのケアを行っている。	ケアプランは、利用者の状況変化のプラス・マイナスを出し合いながらカンファレンスを実施。スタッフ全員の視線と感覚を活用してモニタリングを行い、本人や家族の要望など多方面の意見採用が可能となっている。要望は先入観にとらわれることなく、プランに無いことでも家族と相談しながら、利用者の希望に添えるようにしている。	職員の意見をまとめるチームリーダーと、アドバイザーが決められており、今後のよりよいケアと職員のスキルアップに繋がるものと思われた。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度 記録を書き職員間で情報の共有をしながらご本人にとっての必要な支援が行えるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望があれば、その状況に合わせて柔軟な対応に努めていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の自治会に加入し、地域の一住民としての活動(廃品回収や文化祭など)への参加を無理の無いかたちで支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に家族と十分に話し合いかかりつけ医の選択を行っている。ホーム提携病院以外の場合も情報の提供や交換を行っている。	緊急時の対応と病気予防の観点から、月3回の往診を受ける等、安心の連携がある。現在、訪問医療で緩和ケアを受けている利用者もあり、掛かり付け医の利用の他、2軒の連携の医療機関での往診や、24時間対応が取れている。歯科医院の訪問診療の連携もあり、初期対応への配慮がみられた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックも含め ご本人の状況の変化が見られた場合は、看護師が医療機関への報告を行い連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報の交換をはじめ、ご家族との連絡やお見舞いなどでの状態の確認で退院後の生活についてスタッフ間で情報を共有し安心して生活ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ入所時に重度化した場合の指針をご家族へ説明し文書を取り交わしている。その際終末期に対してのスタッフの取り組みや家族、医療機関との連携についての話しもしている。	終末期の対応経験が一件。看護・介護体制・医療との連携、役割分担等を検討し、最善の補助をホームで対応しようと計画されたが、家族の希望で病院への移転となった。家族が主となり、ホームでの看取りを行う際、病院・家族・ホームの三者対話をどうすべきか、検討課題が出てきている。	終末期の対応では、家族の協力が得られる場合と得られない事例があると思われる。利用者や家族の希望を入所時だけでなく、状況変化に合わせて、病院と家族・ホームの連携を蜜にすることが着たいされる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会などを行い職員同士で実践し、スキルアップにつなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、避難誘導の周知を図っている。	非常口は通りに面しており、近くの消防署との連携、警備会社(Qネット)との契約もある。防災訓練の際は通報から5分で到着。夜間想定での検証も実施している。運営推進会議では地域の水害(排水)に関する情報提供や、協力体制についても意見が出るなど、ホームのスタッフだけでは対応できない事案の検討も行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の場面や様子に応じて言葉掛けや、対応を行い その対応に対しての振り返りも行う時間を設けている(朝礼・終礼)	屋食時、一人ひとりのペースに合わせた対応で、自然で温かい声掛けがみられた。また、お洒落の楽しみをサポートしたり、利用者のそれぞれの経歴や趣味を把握して、刺繍や習字の得意な人への気配り等、尊厳を保つ姿勢が窺われた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思っている事を伝える事が出来るように声掛けを工夫したり、話しかけやすい雰囲気を作るよう気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握、尊重し無理な声かけはせず 身体に危険が及ぶ事以外は、自分の気持での動きに合わせている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好まれる服を選んでいただき、服装の乱れがあるときはさりげなく直している。又ヘアーカットの支援を定期的に行っている。髭剃り、爪切りも声かけし個別に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が手伝いながら食事の準備をされている。片付けはご本人の様子を見ながら一緒に行っている。	ボランティアの方が手伝っているのか、と思わせる程自然に上手に、感謝されながら食事の下拵えや洗い物をする方、スローペースで和気藹々の食事風景。管理栄養士が献立を作成するが、利用者と買い物に出かけた際に食材をみて、食べたいものに変更することもある。食物アレルギーの方には、代替メニューが用意されている。	職員は検食をする一人を除き弁当持参であったが、可能であれば利用者と職員が同じものを食べると、話題も広がるのではないかとと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を定期的に行い体重の増減をチェックし食事の提供の仕方の工夫を行っている。水分補給はこまめに行い水分量の少ない方はチェック表を用いて様子を見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に声かけを行い、歯磨き・口ゆすぎをして頂いている。介助が必要な方もできるだけ自分でしていただける様声をかけ仕上げをスタッフが行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者に応じた時間に声かけを行いご自分で可能な動作は行って頂き介助が必要な部分を見極めて支援している。	引き戸で出入りが楽なトイレは、スタッフが車椅子と一緒に利用できるゆったりした広さ。個別に声掛けが行われ、ベッドサイドにポータブルトイレを置いた入居者は、支援を求めず自力の行動がみられ、自立の自尊心が確保されていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時(10時・15時)に水分補給を行っており牛乳やヨーグルトを提供している。また、屋内、外の散歩を心がけて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入浴の意思を確認した上で支援している。又、嫌がられた場合は場面や時間を変えての促しを何度か行っている。	昼食後2時頃から入浴タイムとなっているが、一番風呂でないと納得しない利用者や、入浴拒否の場合もありで、場面設定には職員の苦勞も窺えたが、声掛けや誘導方法を変えるなどの配慮がみられた。また、午前中や夜間の入浴希望にも応えており、状況によってはシャワー浴も取り入れるなど、柔軟な対応となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースでの入床や起床、午睡などの支援を個別に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導のもと内服の管理や用法、要領の把握を行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理やおやつ作りを一緒に行ったり、新聞の提供や唱歌 またご本人の思いにそった楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に外出行事を計画し、散歩や買物は日課として設定している。個別の外出希望はご家族へご本人の思いや希望を伝え支援している。	季節や天候にあわせた外出支援が企画されているが、日常的には、散歩で近所の畑や自然の空気に触れて季節を感じている。また、食材の買い物などで、スーパーやDIYの店へも出かけ、店員さんとの触れ合い、他のお客さんとの会話、散歩での近隣住民との交流ができており、生活に変化を付け「暮らし」の幅を広げる支援となっている。	職員で行事係りを決めており、季節の行事計画案を練り、計画書を作成しているが、今後は幼稚園・小学校の行事の他、地域のイベントへの参加や、家族合同のバスハイク等、利用者の希望に添った企画が期待できる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際 ご本人の預かり金からお金を渡し一緒に買物に行ったり、外出ができない方は、買い物の希望を聞きスタッフが代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともにご本人の様子を見ながら要望があった際の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓の席の配置や、掲示物に季節感を取り入れたもの、気温の調節 外気の取り入れ、環境音楽など できるだけ落ち着ける環境の提供を心がけている。	天井の高い共有空間の壁には、インテリアとしてのタペストリーが掛けられ、室内を明るく彩っている。採光、温度管理(床暖房)、清潔感など整った環境である。壁には利用者の書道の作品等掲示され、その腕前を披露しているが、多すぎる掲示物とはならず、和らいた雰囲気を感じさせている。食卓は2つに分離出来るため、庭に出して外の空気に触れながら食事をしたり、利用者同士が不穏な状況になった際にも、適当な距離が出来、落ち着いてもらう等居心地の良い空間が作られている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何箇所かに座って過ごせる場所を作り、食卓の移動も可能なようにしてある。日々の生活の中、各自の様子から座る位置などの配置に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みの家具、物を使っていただけのような働きかけを家族に行っている。	趣味の作品を飾った居室、仏壇のある居室等、使い慣れた馴染みの家具等を、家族の協力を得ながら整えつつある状況で、シンプルな部屋作りとなっているところが多い。それでも手芸が得意という利用者の部屋には、自作の刺繍が取り入れられた整理筆筒が持ち込まれており、満足気な表情が心地よく過ごせる証となっている。	家族への理解と協力が不可欠であるが、入居間もない居室などでは、家族の写真を飾るなど、これまでの生活歴を思い出す事が出来るような品を増やすことが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわかりやすいように張り紙をしたり手すりを使いやすいような家具の配置を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100768		
法人名	営利法人 (有)熊進企画		
事業所名	グループホーム ゆうしん三丁目		
所在地	熊本市野中三丁目7-27		
自己評価作成日	平成22年7月14日	評価結果市町村受理日	平成22年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp">http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成22年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎日のお茶に時間を共に過ごしている。・季節の行事を取り入れ共に愉しんでいる。・天井も吹き抜けになっておりゆっくりと過ごしていただける。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を、朝礼時に全員で言葉として上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に行き挨拶をしたり、世間話をしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会をはじめ、町内の役をされている方々や交番の人に対して発信し、その他の方々への発信は、管理者により行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回おこなっており、会議録の公開もしている。また質問に対しての回答は、次の会議にて行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の方には、運営推進会議を通じて連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員対象の研修やミーティング等での勉強会を通して身体拘束について学び、現在拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、勉強会を行い虐待とはどういうものか勉強した。日々のケアの中で自分が行っていることが虐待に当たるかどうかをスタッフ同士で確認し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などでの勉強会は行ったが、その詳細についてのミーティングは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は、十分に不安や疑問点について聞き取り安心して入所して頂いており、退所後も家族と継続した支援が続けられるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に、まごごろ箱という意見箱を設置し意見がもらえるようにしてある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内研修や各職員の個人面談を行い意見や話を聞いてもらえる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に休みの希望を聞いたり職員の条件に合うように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の通知がある場合は、通知文書に眼を通し研修の機会を提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH総会の参加などにより互いに情報の交換をしたり訪問してこられたケアワーカーとの情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に要望を聞き取り、入所されてからの不安を察した対応を心がけながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行いながら、ご本人の情報のきめ細やかな交換、気持ちの良い挨拶、ご本人の趣味嗜好の聞き取り		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの説明時や、その後のプランの説明時にご家族の意見や要望を聞き取り取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、などの家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の状況を伝え、必要な支援の内容を話し合いご本人にとってどのような形の支援が良いのかご家族としての意見も伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の面会時は、ゆっくりと過ごしていただけるような環境の設定をおこない、気兼ねなく交流していただける様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士での関わりをされているときは、離れて見守り その空間に流れる雰囲気壊さないよう気を配るとともに支援が必要かどうかの見極めも行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方々のその後の状況を見るためにも、家人やご本人との会話に努め状況を把握している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの得意な事や、好きな事を把握し実現に向けての支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のケース調査表などをもとにスタッフ全員で譲歩の周知を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の希望を受け入れながら気持を汲み取ったケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人面会時に面談をし、ご本人の様子を伝え現在のケア以外に気になる事を聴きプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の事を ご本人の言動や行動も取り入れた記録を行いスタッフ間で情報の共有を行っている。また、3ヶ月に1回プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に変化が合った時は、家人へも情報を伝え支援の方法も伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での取り組み(リサイクル活動や、催しもの)には事前に配布された予定にて情報を把握し職員と一緒に参加するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に3回往診にこられており、十分にご本人の話も聞かれている。希望があれば、家人と先生とで話しをされる事もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発や事故など、日常で起きた事は報告し指示を仰いでいる。状況によりドクターへの報告も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、2週間以内にお見舞いに行っているその際に、家人や医療者へ状況を尋ね情報を聞き退院に向けての準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた方がおられたが、家人との話し合いの前に家人より病院への入院を希望され十分な説明をすることができなかった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っておらず、全ての職員が発生時に対応できるかどうかは不安があるが、AEDの設置もできたので今後全職員が使用できるよう努力していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方々から災害時どのような状況になるのか聞いたり消防署より来て頂いて実際に訓練を行ったりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の方々を尊重し、十分に言葉に配慮した声かけを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯干しや 料理、トイレなどご本人が日々決定できるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今は、ケアプランに添って毎日にケアを行っており利用者の方々の一日の中で行われることを守りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	顔そりやヘアーカット、髭剃り その日に選ばれる服など気を配り支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できられる方に対しては声かけを行い 食事の準備、配膳、下膳など一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で確認したり、湯飲みの中を確認したりして一人一人食べたり飲んだりされているのを確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの物品をこちらから提供し、できる方には行ってもらい 支援の必要な方にはスタッフにて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	提示のトイレ誘導以外にもご本人の排泄のパターンに合わせてトイレ誘導を行い、また行きたい様子が見られたときにも時間に関係なく気持ちに沿って行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターと連絡を取りマイナス3日目で緩下剤の与薬を行い排便のコントロールを行っている。繊維の多い食物を提供し、個々に応じて刻み食の提供も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望にあわせ行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や、日中の状態を考慮しご本人に合わせて休息や睡眠を取っていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬か目的まで把握していることは、現段階では出来ていない。しかし、服薬支援においては誤薬がないよう4段階のチェック機能を設けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きな事や、ホーム内での役割があることを伝え支援していく。習字教室やガーデニングを通して楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事を出来るだけ地域にて設定したり、買物などへ一緒に行き地域の方々との交流の機会を持っていただくよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物などに一緒に出かけ好きな物を買って頂き支払いの際はスタッフが支払いを手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す方は、現在おられないが希望があれば手紙や電話のやり取りの支援を行いたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開け空気の入替えを行い換気し リビングのボードにはご利用者の習字の作品を展示し棚には季節の花をおき 会話の中で季節の話ができるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファを置きTV視聴のスペースを確保している玄関から入ってすぐのところにもソファを置き集団から少しはなれての居場所作りの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が昔から愛用している馴染みの家具や、仏壇、又は家族との写真などを持参され居心地のよい環境作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テレビの前が広くとられておりゆっくりと座れるようソファーが置いてあるソファに座られゆったりとした気分できつろぐことができる。		